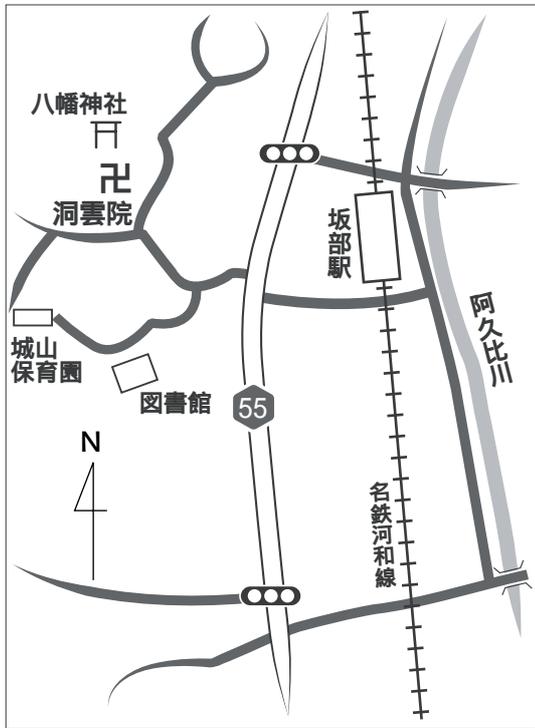


# シリーズ

## 阿久比を歩く ④④



洞雲院所蔵英比磨の縁起巻物

「さて、この荘の開祖と仰がれた英比磨は、天寿を全うして、永い眠りにつきました。里の人々は、慈父を失ったように長い間悲しみにくれておりましたが、英比磨夫婦の木像を造って、最近まで、各家へ一日ずつお迎えし、立白の上に新しいこもを敷いてその上に安置し、親族縁者を招いてお参りをいたしました。これは、英比磨はいつまでも生きておられて領内を巡視して下さるのだと

### 伝説の地を歩く(英比磨伝説)



いう思いで、その徳をたたえてきたもので、この地では『回り地頭』とか『回り地蔵』と呼んでいます。英比磨の墓と回り地頭の木像は、坂部の洞雲院に祀られております。(阿久比の昔話)『英比磨物語』から」。

洞雲院を訪れた。回り地頭を見せただけでないかと住職に依頼する。快諾してもらえ、本堂の奥へ案内してもらおう。回り地頭は立派な厨子の中に夫婦で安置されている。

住職は「回り地頭信仰は江戸時代には、半田の乙川や亀崎地区などを含めた英比十六カ村で行われていました。明治時代になると、この寺にまつられ、母屋を新築した家主が寺から借りていき、一週間ぐらい客間にまつて家の繁栄を祈りました。英比磨の祖父菅原道真公の天神伝説にちなみ、雷よけの信仰としてもまつられていましたよ」と話してくれました。

「寺に伝わる英比磨伝説がありませんか」と住職に尋ねると、『尾張志』の記述にもありますが、英比磨が五



洞雲院所蔵の“回り地頭”

歳のとき、都から来た勅使を出迎え、腰をかがめて会釈をしたら勅使が口ずさみに『をさな心にかがみこそすれ』と言いつけられ、英比磨はとりあえず『英比の子は生まるるよりも親に似て』と付け加えたそうです。

海老の子が生まれたときから腰が曲がっているように、腰をかがめて会釈することは、生まれたときから親にしつけられた当然のことだということの意味しています。『英比』と『海老』の言葉が掛けてあるんですよ」と教えてくれた。

「今年も良い年になりますように」と本堂に手を合わせる。境内を出てから私が「聖徳太子は幼いころからすごい人物だったらしいが、英比磨もすごいねえ。僕なんか五歳のときは仮面ライダーに夢中だったかなあ」と友人に話し掛ける。友人は「僕は太陽戦隊サンバルカンに夢中でした」と変身ポーズを私に自慢げに見せてくれた。